

各位

平成 20 年 2 月 26 日

会社名 中越パルプ工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長岡 剣太郎
(コード番号 3877 東証・大証一部)
問合せ先 調査委員長 原田 正文
(電話 03 - 3544 - 1522)

地球環境保全・社会貢献への取組みについて

弊社は、「環境と社会に貢献する企業に」という企業理念の下、積極的に環境負荷低減活動に取り組んで参りましたが、先般ご報告いたしました通り、再生紙において公称古紙パルプ配合率と実際の配合率に乖離がありました。

環境問題に造詣が深く日頃から紙のリサイクルにご尽力をいただいております消費者、取引先を始め関係各位の期待を裏切り、混乱を招いたことに対し改めて深くお詫び申し上げます。

尚、広範な混乱を招いたことのお詫びの表明として、弊社も今回複数の同業他社と共同で今後数年間に亘り総額 10 億円程度の環境保全のための社会貢献を行うことと致しますが、弊社独自の取組みとして全社をあげて推進中の地球規模での環境保全、温暖化防止、資源保護等の社会貢献も一層押し進めて参りますので、関係各位のご理解とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

以下に取り組み内容をご報告致します。

1. 古紙利用量の増大

弊社の古紙利用は昭和 54 年に高岡工場二塚において古紙パルプ設備を稼働させ、新聞用紙原料として使用を開始、その後平成 11 年に高岡工場能町において洋紙向け古紙パルプ設備を稼働させ古紙利用を増大して参りました。近年古紙調達が困難になっておりますが、現在高岡工場能町の古紙パルプ生産能力には余力があることから、今後更なる古紙利用の増大を図るべく努力をして参ります。

弊社は既に平成 14 年から地元企業から発生するオフィス古紙を利用しており、この 5 年間で約 10 倍の 650 トン/年まで増大して参りましたが更なる利用促進に努めます。

< 古紙利用量 >	単位：トン		
	2003 年	2006 年	2012 年目標
	168,400	185,269	210,000
			(能町設備フル稼働時)

2. 竹の有効利用による森林整備の推進

弊社は、鹿児島県において、地域が対策を模索していた竹の有効利用について、2000年より地域と一体となって取り組んで参りました。

弊社は紙の原料として、竹に新たな経済的価値を付加することを試み、輸送やチップ加工における効率の悪さ等の諸問題を地元関係者ととも一つ一つクリアしながら、現在では年間約6,000トン、面積にして年間70ha相当の竹林を有効利用できるまでになりました。当初は地元タケノコ生産林の維持管理を主眼としておりましたが、集荷範囲の拡大に伴って、放置すれば周囲の森林を侵食、荒廃させる竹林の伐採整備の推進にも微力ながら貢献することができるようになってきております。

これからも弊社は、これまでのノウハウを生かし、より広域に働きかけ、地域の方々と一体となって「山の厄介者」である竹の有効利用を進めて参ります。

<竹利用量> 単位：トン（含水トン）BDT（絶乾トン）

2003年実績	4,247	トン	(2,548	BDT)
2006年実績	5,795	トン	(3,477	BDT)
2012年目標	10,000	トン	(6,000	BDT)

3. 国内未利用材の積極調達

弊社は製材廃材、解体材、間伐材などの低質材を原料として使用しております。今後は山林関係者を積極的に支援、国内未利用資源の活用と国内森林の整備促進により地球温暖化防止に貢献してまいります。

<国内材 樹材種別調達量> 単位：BDT（絶乾トン）

	2003年実績	2006年実績	2012年目標
製材廃材	141,744	151,844	150,000
人工林及び			
未利用低質材	105,954	114,801	140,000
計	247,698	266,645	290,000

4 . 植林事業の拡大推進と森林保全

弊社は国内に社有林 792ha、分収造林 558ha 計 1,350ha の森林を保有、海外においては他社と共同で 3,862ha の事業植林を展開中であります。

国内外において毎年一定の保育事業費をかけ地元住民の雇用機会を創出しておりますが、更に国内では森林の蓄積量の増大を図るべく保育管理を充実させ、海外では更に植林面積を拡大すべく取組み中であります。(現在東南アジアにおける案件を検討中であります)
未利用の荒廃地に植林し、森林資源を育成保全することで、CO₂ 吸収量増大に繋げ地球温暖化防止に貢献しております。

< 現在の国内造林及び海外植林 >

国内造林地	1,350	ha (富山県、石川県、福井県、鹿児島県、宮崎県)
海外植林地	2,244	ha (ニュージーランド国 北島ワンガレイ地区)
	1,618	ha (ベトナム国 ホーチミン地区)
計	5,212	ha

5 . CO₂ 排出量の削減による地球温暖化防止への貢献

< 木質ボイラーの設置 >

弊社は家屋解体材、剪定枝、解体切削木質チップ・ダスト類、プレーナー屑・オガ粉及びパークなどを原料とする木質ボイラーを設置し化石エネルギー(重油)の使用を低減することにより更なる CO₂ 排出削減を図り、地球温暖化防止に貢献します。(平成 21 年 6 月完工予定、投資金額 15.3 億円)

これにより 1,100kl/月の重油使用量の減少を見込んでおり、約 27,000 t-CO₂/年の CO₂ 削減効果が得られます。(1990 年排出量の 23.4%削減、植林面積 2,800ha 相当となります) 弊社の 1990 年からの CO₂ 排出量の削減量の推移は下記の通りであります。

CO₂ 排出量の推移 (単位: 千 t-CO₂/年)

	1990 年	2006 年
CO ₂ 排出量	705	567
1990 年比削減率	-	19.6%

6 . その他

弊社は割り箸回収、オフィス古紙回収、植林ボランティアなどの地域環境活動を実施中ですが、更に対象を拡大すべく努力して参ります。

以上